

月刊

あづまへる



元気に
モリモリ!

おなかと
こころを
満たす
場所。

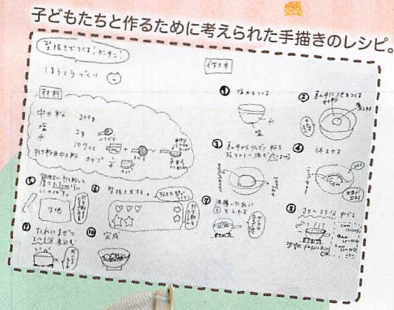


巻頭特集 「ゆあら元気こども食堂」

2019 冬づくし
冬の宴会&グルメ/テイクアウトetc./
おもてなし&ギフト/ごほうび

クリスマススペシャル
読者プレゼント

《スクール応援団》
米沢第二中学校 野球部



ゆあら元気食堂

くのりKIDS 食堂

《今日のメニュー》

- ・山梨名産 ほうとう 110円の風!!
- ・季節の 浅漬け
- ・マンゴー プリン

今日のメニューが書かれた
ホワイトボードに自由に
絵を描く子どもたち。



たくさん食べてもらえるようにと
大きな鍋に、具がいっぱい!



調理施設のすぐ隣にある、広い和室をみんなでセッティング。
小さい子どもが遊べて、赤ちゃんを抱っこしてやって来る人も安心です。

元気に
モリモリ!
おなかと
こころを
満たす場所。

NPO法人 女性支援ネットワーク ゆあら Presents

元気こども食堂

「ゆあら」は、NPO法人「ゆあら」が運営する子ども食堂です。子どもたちが安心して食事を楽しむことができます。また、地域の子どもたちと交流する機会もあります。

第34回 ゆあら【元気こども食堂】(※予約)

日時：10月26日 日曜日 12時～14時

場所：〒302-0814 春日野町 調理室

会費：おとな 400円 こども

【申し込み】080-5229-1252 (竹部)

10:30まで予約受付、11時以降は当日でも受付可能です。
お申し込みは、お電話またはメールでお申し込みください。
お申し込みは、お電話またはメールでお申し込みください。
お申し込みは、お電話またはメールでお申し込みください。

ゆあら

【お問い合わせ先】 NPO法人 女性支援ネットワーク ゆあら
〒302-0814 春日野町 400-2 調理室 電話 080-5229-1252
Eメール: yura@yura-net.jp

【お問い合わせ先】 NPO法人 女性支援ネットワーク ゆあら
〒302-0814 春日野町 400-2 調理室 電話 080-5229-1252
Eメール: yura@yura-net.jp

「ゆあら元気こども食堂」って?

提供——その支え方がすこしずつ変わってきているようです。
今回はNPO法人女性支援ネットワーク「ゆあら」で行っている「ゆあら元
気こども食堂」へ、その様子取材してきました。

ここでは普段、「ゆあら」のスタッフが作った料理を食べていただき、話をしたり遊んだりしながら、のんびりと時間が流れていきます。取材当日は九里学園とコラボ「くのりKIDS食堂」。参加生徒の希望もあり、子どもたちと一緒に食事を作っていました。

「ゆあら」の意味は「優・愛・楽」。「優しく愛することはもちろん、楽しく生きていくことは大事だよ」と娘が考えてくれた名前なんです」と代表理事の竹部広子さん。「安心・安全で自分らしく」をモットーにする「ゆあら元気こども食堂」には、子どもと親だけではなく、おじいちゃんやおばあちゃんもやって来ます。楽しくなって話に花を咲かせる人もいます中で、相談を受けることも少なくありません。そこで「ゆあら」



NPO法人女性支援ネットワーク「ゆあら」
代表理事 竹部 広子さん

を構成する弁護士・税理士・社会福祉士などの「プロボノ」の人々が活躍するのです。相談を受けたらすぐに弁護士を手配するなどの連携が取れているので、さまざまな悩みが相談できる場所。竹部さん自身もDVについてのNPO活動をしており、以前こども食堂に来ていたお母さんが、誰にも相談できずにいるその悩みを思い切った相談してくれたことなどもありました。「そのような環境下にいるお母さんと子どもを守れたというのは嬉しかったですね。悩みごとはいっつきるのかわかりません。起きたその時、必要な受け口であるためにも、こ

参加しての感想

こども食堂への参加は2回目です。「自分のできることをやってみよう」と思って参加しました。

将来、自分の家庭ではどんな食卓にしたい？

あったかくて楽しい食卓です。弧食などが増えてきていますが、みんな食べられるような楽しい食卓を、家族そろって囲めたらいいんじゃないかなと思っています。



九里学園高等学校1年生 平賀 千暁さん



自身も子どもがいる五十嵐さん。ご飯を作ることが好きで、自分にもできることだから、とお手伝いしているそう。



協賛

- 佐治工業
- 長岡法律事務所
- 猪口養生堂
- 鈴木建設
- アムラス
- 坂田 朝子
- 小川 雅幸
- 小川 圭子
- WeissHAIADesign 代表 横山 裕
- 文教大学学生 鈴木 志穂那

ゆあら

たくさんの人や企業さんがこども食堂を応援してくれています。ホワイトボードにはその名前がびっしり。

食材提供 協力

- 米沢市
- 上杉コカ-Cola
- 社会起業大学
- 月刊おはよう



子ども食堂を1回でも多く、長く続けることに意味があるんです」と竹部さんは話してくれました。

※プロボノ……各分野の専門家が、職業上持っている知識やスキルを無償提供して社会貢献するボランティア活動のこと。

食堂を始めるきっかけ

2年前にスタートした「ゆあら元気こども食堂」。その更に2年前、東京で活動していた竹部さんは、牛丼屋で1人食べる子どもの姿を見つめました。日曜日の夕方、家族でご飯を食べているだろう時間にです。米沢では見たことのない光景に、声をかけるとその子はまだ小学3年生でした。夜仕事で留守になる母親からお金を渡されて、いつも外食をしていると言ったのです。その頃こども食堂に興味を持ち、視察研修をしていた竹部さん。東京でのこども食堂が明らかに対象にしていたのは「貧困層」でした。「でも、この子はお金を持っているから貧困層じゃない」頭に浮かんできたのは「孤食」。そんな出来事から竹部さんは「貧困」ありきではなく、「1人でも多くの



NPO法人女性支援ネットワーク「ゆあら」 理事 五十嵐 玲子さん

「別居しているおじいちゃん・おばあちゃんと一緒に、子どもがご飯をモリモリ食べるんです」「家ではあまり食べないのに、こども食堂ではおかわりするので驚きました」と、参加していたお母さんたちが話してくれたように、大勢で食べることに不思議なチカラがあるようです。そしてそのチカラは子どもたちだけでなく、大人にも。以前老夫婦が参加されたとき、家では普段話などしないおばあちゃんが、いろんな人

みんなで食べる ご飯のチカラ

子どもたちに来てもらい、一緒に食べる楽しさをぜひ体験してほしい」という思いから、米沢でこども食堂をスタートさせたのです。

開設時から共に活動している同級生の五十嵐玲子さんも、竹部さんと同じ思いです。「核家族が増えてご飯を一緒に食べる、他の人と食べるという機会が少なくなっていますね。知らない人との関係性を作っていく環境が減っている社会で、食事を通して学びの場としても『こども食堂』は必要だと思えます」と、こども食堂の存在意義を話してくれました。





九里学園高等学校1年生
穴戸 遥々花さん

参加しての感想

ここで学んだことを活かして、どんどん自分のできることをしてあげたいです。ゆあらしんのようなこども食堂や、募金活動とか。

将来、自分の家庭ではどんな食卓にしたい？

食卓もですが、みんなで笑って、楽しく暮らせる家庭がいいなと思っています。そのためには自分中心じゃなくて、お互いが周りのことを気にしてあげない。



参加しての感想

学校の文化祭で行ったこども食堂を含めて、3回目の参加です。調べ学習をしている中、身近なところから学びたくて参加しました。

将来、自分の家庭ではどんな食卓にしたい？

家族全員で食べるご飯がいいです。僕のお母さん・お父さんがしてくれたように、会話の機会が一番多い時間なので、子どもが学校に行くようになったらその話も聞いてみたい。食卓は「明るくみんなで」がいいですね。



九里学園高等学校1年生
齋藤 兼信さん



これからの「ゆあらしん」 元気こども食堂

と一緒に楽しくなったのか話が止まらなくなったとか。名前は「こども食堂」ですが、子どもだけでなく誰でも気軽にいることができる「居場所」です。ここで親同士の交流や、人生の先輩にいろいろな相談をしたり、食事を通して人とつながっていく。それが「心の貧困」をなくし、お腹も心も満たしていくのでしょう。

竹部さんが今後の夢を熱く語ってくれました。「今回コラボした九里学園さんのように『こども食堂』を立ち上げたいという方が増えていけばいいですね。1ヶ所でも増えていけば、救える人も増えると思います。いろいろな団体ともコラボしていきたいですね。私が参加している女性消防団と紙芝居や、災害時の炊き出し練習をしたり、もっと自由に『こども食堂』を運営していきたい。企業さんでも呼び出さなければケータリング食堂とかね。」

最近では、「こども食堂」がお母さんたちの待ち合わせ場所になっているそうです。「子どもとゆっくり食事できるから」と、お母さんたちが気軽に利用してくれているのが嬉しい。新しいことへの挑戦ということで、リラクゼーションができないか企画中です」と五十嵐さん。

information

大人400円、こども無料 **おかわり自由!**

こども食堂は基本第4土曜開催!

詳しくは、米沢市報・Facebookをご覧ください! お問い合わせは下記まで

NPO法人女性支援ネットワーク「ゆあらしん」

☎080-5229-1252 (竹部)

www.facebook.com/yuara.p6v6q/



▶▶次回開催日は本誌のP35へ!

取材協力: 米沢市すこやかセンター



友だちを誘って、家族で参加して、そこで友だちを作ったり、どんどん参加してみませんか。誰かと食べるからこそ、美味しい食事がさらに美味しくなります。たくさん食べて、たくさんおしゃべりして笑って、お腹も心も満腹!

忙しい中、取材に協力いただきありがとうございました。

いただきます!



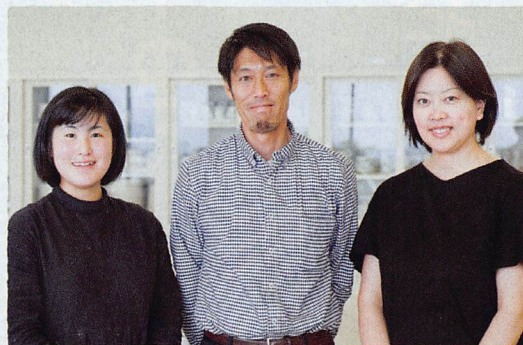
ハロウィン仕様のほうとう!



今回コラボしていた九里学園の生徒と先生方にも話を聞きました。いろんな人と協働しながら、「地域の抱えている問題・貧困の問題・心の貧困の問題」といった課題を生徒たちが主体的に見つけて探究し、解決する力を身につけていく事を目的としている授業。その中の「こども食堂プロジェクト」の一環だそうです。

「フィリピンやザンビアなどの貧困地帯の子どもたちはすごく幸せそうに見えるんですね。『貧困ってなんだろう? 幸せってなんだろう?』と考えてしまいます。でもそれは、家族みんなでご飯を食べたりするから幸せそうに楽しそうだから。生徒たちはそれを目にしたとき、『貧困なのにこの楽しそうな雰囲気はなぜ?』となって『幸せってこういうことなんだ!』と思えるようになります。そして生徒たちは、日本の『孤食』や『孤立』などを見たとき『あそこに見た幸せとは違う』ことに気づくのではないのでしょうか」と、鈴木精先生は「本当の幸せ」と「心の貧困」について語ってくれました。

「日本の貧困は、あまり見えないのが特徴なんです」と話すのは、教育改革推進事業国際交流アドバイザーの宗友かおり先生。「子どもは、自分が他の助けを必要としていることすら気付きません。本当に助けを必要とする子どもが来たり、金銭的なこと以外にも困りごとを話してくれたら、必要なものを聞き出すこと。さらに今の自分でできることを考え、その上で行動してみる・知識のある先生方に相談してみる、



九里学園高等学校 (写真左から) 會田 裕香先生、鈴木 精先生、宗友 かおり先生

そんな行動ができる生徒になって欲しいですね」。

授業でも食と関わっている家庭科の會田裕香先生は、「食べ物を食べることは、生きていくために必ず必要なことで、その方法をどうするかだと思います。1人で食べる選択肢もありますが、2、3人で食べる『人数が増えた方が美味しいよね』と、良い方を選択できる生徒が増えて欲しい」と、食事を作ることの大切さを指導していきたいと話してくれました。